

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 10 月 27 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3890700085
事業所名	グループホーム春の風
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	徳森 利弘
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 8 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>ここにはぬくもりがあり よるこびがあり笑顔がある</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①コロナ過の中、外出自粛をしている、利用者様のストレス軽減を図りたい。 コロナ対策し、出来るだけ面会の機会を設けて大勢の方に来訪していただき、寂しさやストレス軽減につながったものと思われます。 ②利用者様各自が出来ることを手伝ってやりがいや生きがいを見つけて気分転換して頂く。 草引きなど花壇の手入れや野菜の種まき苗植え、取り入れなど手伝ってもらって外気浴を楽しみ気分転換につながったものと思われます。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>水族館部で全国的に有名な長浜高校の近隣にある事業所は、ベランダから海の絶景を眺めることができる。法人は、大洲市内で障がい者支援施設などの複数の施設・事業所を展開し、定期的に、法人間での職員の仕事異動も行われている。コロナ禍などの感染対策が続く中でも、事業所では、集合形式の運営推進会議開催を基本とし、多方面から多くの参加メンバーを得て、継続して開催することができている。また、地域の学校との関わりも多く、小学生が事業所を訪問したり、中学生の職場体験を受け入れたり、高校生がクリスマスカードを届けてくれるなど、多くの交流が再開できるようになってきている。さらに、事業所の1階には、地域交流室が設置され、家族との対面での面会に使用しているほか、現在は地域住民への開放は休止しているものの、感染対策を講じながら、管理者は「休止していた地域交流室の貸し出しを再開したい」と考えている。管理者をはじめ、事業所での勤務経験の長い職員が多く、職員同士で相談し合ったり、助け合ったりすることのできるチームワークの良さが、利用者の笑顔や安心にも繋がっている。加えて、以前活き活きと山仕事をしてきた利用者の写真を居室に飾ったり、利用者が自宅でしていた味噌作りを、事業所内で手作りしたりするなど、好きな話題の提供や、以前していたことを継続してもらいながら、楽しみや喜びのある日々の生活を送れるような支援にも取り組んでいる。</p>
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者一人一人に担当を決めて普段からコミュニケーションを取りやすくしている	◎	/	◎	入居前に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、アセスメントシートの項目に沿って、思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。入居後も、日々の生活の中から、利用者の言葉を聞くとともに、表情や様子から、思いや希望をくみ取るよう努めている。また、職員は記録作業をする場合にも、利用者と同じテーブルの隣に座り、利用者と会話をしたり、様子を見聞きしたりするなど、利用者に寄り添いながら、職員の気づきを含めた記載を心がけ、記録に残すことができている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の態度やしぐさ、表情や声色にも注意して観察を行い対応できるようにしている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	毎日のミーティングや都度の申し送りなど、月一回のケアカンファレンスなどで話題にしている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	申し送りノートや個人の日記にも記録している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員の思い込みや決めつけを行いがちになるので複数の職員の意見を聴くなど本人の意向を聞くように気をつけている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	ご本人や担当されていたケアマネさんご家族や知人などから情報をいただき本人の満足に近い暮らしが出来るようにつとめている	/	/	◎	管理者は、利用者の生活歴や生活環境を重要視し、可能な場合には、事前に自宅を訪問し、利用者や家族と面談を行うようにしている。自宅が訪問できない場合には、施設や病院に向き、面接をしている。アセスメントシートには、生活歴や趣味などの項目が設けられ、これまでの暮らしや生活習慣などを聞き取れるようになってきている。また、入居前に利用していた介護サービス事業所の関係者のほか、介護支援専門員から情報を聞くなど、利用者一人ひとりの人物像の把握にも努めている。把握した情報は、アセスメントシートに記載し、職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常の会話や身体能力などを考慮して出来るようなことをお話しし上手にいつか時にはともに喜び、続けられるよう声掛けしている	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	生活のリズムは人それぞれなので、出来るだけその方に合わせた生活スタイルを尊重している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンス時や申し送りノートを活用して情報を共有し、朝のミーティングや夕方の申し送りで様子を細かく伝えて本人の思いに寄り添えるよう検討している	/	/	○	利用者や家族から意見を聞くほか、アセスメント情報をもとに、利用者本人が何を求め、必要な支援は何かを、利用者の視点で検討している。担当者会議を実施する際に、必ず利用者の意見のほか、家族の意見や希望を確認し、記録にも残している。家族からは、「お任せします」という意見が聞かれることが多くなっている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	本人の思いに寄り添える様、ご家族も含め、みんなで検討している	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	朝夕のミーティングやカンファレンスや日頃の様子から本人の暮らし方や思いに寄り添えるよう作成している	/	/	/	アセスメント情報のほか、事前に把握した情報をもとに、利用者毎の担当職員が、介護計画の原案を作成し、計画作成担当者等と内容を検討しながら確認を行い、介護計画を作成している。また、利用者や家族の意見や希望のほか、関係者の提案を反映された介護計画の作成に努めている。さらに、アセスメントシートの情報は、介護計画の見直しに合わせて確認や更新を行い、現在の利用者の状態のほか、新たに知り得た情報を追記している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	自立支援を基本として考え、担当者や面会時に家族や本人とも話して意見をいただき、より良い方法を計画している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	慣れ親しんだ暮らしにより近づける様、日々職員が協力しその方の能力を最大限引き出せるような内容になるよう計画している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	コロナ対策の為、地域の方との交流はなかなか持てないが家族との協力体制を密にして計画している。目標とした	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録日誌に一人一人のケアプランをコピーしてあり、いつでも目標などが確認できるようにしている	/	/	/	○ 利用者の介護計画は、すぐに確認できる場所に置かれ、職員は目標や支援内容を理解している。介護記録には、日中は黒字、夜間は赤字、看護師は青字で記載するほか、医療関係には◎、認知症状は☆、家族は△の印を付けて区分を行うなど、分かりやすく記載する工夫をしている。また、計画のサービス内容の項目毎に番号を振られ、計画に沿った実施状況の有無が分かりやすいように様式への記載が行われているが、番号の記載が活かしていない記録も見受けられるため、さらに実施状況が分かりやすくするために、職員間で記録の仕方や様式の見直しなどを検討することも期待される。さらに、日々と変化した利用者の言動を記録に残すこともできている。加えて、約2年後には、介護ソフトを導入を予定しており、職員の記録等の負担軽減に繋がることも期待される。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護記録日誌に実践の内容を記録して特に気を付けた事は申し送りノートに記録したり直接伝えている	/	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的にモニタリングとアセスメントを行い見直ししている	/	/	/	◎	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	職員が月1回のカンファレンスを行い必要に応じて週1回の訪問看護師や2週間に1回の主治医に意見を求めている	/	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態の変化や退院されたときには状態を確認しながらその人らしく暮らせるような新しい計画を作成している	/	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	一ヶ月に1回のカンファレンスを定期的に行い毎日の申し送りなどで緊急時には春の風グループラインでみんなに伝えるようにしている	/	/	/	○	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	自由に発言が出来るように雰囲気づくりに配慮し、不在時などにはメモなどで伝わるよう工夫している	/	/	/	○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	職員ミーティングは毎月の初めの水曜日に固定しているので予定が立てやすく集まりやすい環境にしている	/	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートを活用し、些細なことも記入して、職員全員の確認の印にて確実に伝わるようにしている	○	/	/	◎	日々、朝夕2回の勤務交代時には、申し送りノートを活用して口頭で実施するとともに、利用者一人ひとりの24時間の様子や特変事項が一目で分かるように、入居者状況表で利用者の状態を確認している。また、出勤時に職員は休日分を遡って申し送りノートや入居者状況表を確認し、確認後には押印するなど、確実な情報共有に繋げている。1階ユニットでは、グループLINEが設けられ、職員間での情報共有に活用することもある。

(2) 日々の支援

9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	声掛けにて手伝いなどその日の出来そうなことを提案して実施して最後まで出来た時には感謝の言葉を述べている	/	/	/	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	機能訓練や手伝い、入浴の準備時など出来るだけ自己決定できるような声掛けを行っている	/	/	/	○
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	個人個人の思いやこだわりを大切に個人のペースに合わせた支援を行っている	/	/	/	○
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	日中活動に参加して頂き、手伝いをしていただいた時にはねぎらいの言葉がけをしている。	/	/	/	○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の思いに寄り添える様、ご家族も含め、みんなで検討して支援している	/	/	/	○
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、自立たずさげない言葉かけや対応等)	○	機会あるごとに人権や尊厳について学習している。特にカンファレンスや年間研修でもテーマとして取り上げて意識づけを行っている	○	◎	○	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	浴室の扉や更衣室の扉を移動以外では解放しない様注意しトイレ誘導もさりげなく行っている	/	/	/	○
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へは利用者で出来るだけ一緒に入るよう心がけ利用者が居室にいない時でも声掛けは行っている	/	/	/	○
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報の保護については常に気を配り、介護計画や個人情報の使用後はシュレッダーにかけている	/	/	/	○

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	日常の何気ない会話から昔のお話を聞いたりどうすればよいかの意図的な質問をしたりしている	/	/	/	職員は、利用者同士の性格や関係性を理解している。認知症状などの進行に伴い、言い合いなどのトラブルが発生しそうな場合には、早期に職員が間に入って対応をしたり、配席などの考慮をしたりするなどの工夫を行い、大きなトラブルに発展していない。時には、利用者同士で気遣う場面も見られ、職員は関わりから生じる関係性を見守るとともに、他の利用者を気にかける世話好きな利用者が励ましの声かけをしてくれるなど、心遣いを大切にされた支援にも努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	いろいろな人の集合ではあるがお互いが支え合い、気を使うことで一つの家族のようにまとまることを理解している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員は常日頃より利用者同士の関係性を観察しており、トラブルを未然に防ぐようにしているができるだけ利用者同士で多くの人ととの交流の大切さも感じている	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの無いよう普段の関係に注意し最初から隣同士にならない様に席を外すなど工夫している	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	本人や家族 周りの方の話などで、情報を収集しアセスメントシートにて共有している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナ過の為外出が難しかったが出来る範囲で対応している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	利用者さまの希望に合わせて外気浴や花壇の草引き、野菜や花の水やり、収穫など本人の能力に合わせてできる支援をしている	×	×	○	コロナ禍が続き、外出制限が設けられていたが緩和され、感染対策を講じた上で、家族と一緒に外出してもらうことができるようになってきている。日頃から、リビングからすぐに出られるテラスに出て、海などの景色を眺めながら外気浴をしたり、敷地内を散歩したり、敷地内にある畑で野菜作りをするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、外食までは控えているものの、好きな弁当を購入し、屋外で食べるなどの工夫もしている。さらに、ドライブをして、フラワーパークや喫茶店などに出かけられるようになってきている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	コロナ過だったが、様子を見ながら少しの時間、外出することができた。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	毎日申し送りで状態の変化など伝達し情報を共有し主治医にも相談しながらその人にあったケアが出来るように努めている。	/	/	/	事前にアセスメントするほか、日々の生活の中で、利用者一人ひとりのできることやできないことをアセスメントシートなどに記載して職員間で把握し、自分でできることはしてもらい、職員は過度な口や手を出し過ぎることなく、待つ介護で見守りしている。また、毎日2回実施する体操やレクリエーションの際には、一人ひとりの利用者の身体状態に合わせたお手玉やピンポン玉入れ、ことわざなどを取り入れ、楽しめるような支援も行われている。さらに、平行棒を活用して、歩行訓練を行うなど、利用者の心身機能の維持にも努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日のお手伝い、日常生活動作活動で、身体能力の維持・体操・レクリエーション・歩行訓練等で筋力維持向上に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	本人が出来ることは見守りして出来るようなことは声掛けや一部助したりしている。	/	/	/	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	家族からの情報やアセスメントの情報は職員間で共有している。	/	/	/	事業所では、利用者一人ひとりの得意なことや好きなこと、習慣などを把握し、調理の下ごしらえや洗濯物の取り入れ、食器拭きなどの役割や出番を担ってもらえるよう支援している。洗濯物干しやたみ、草引きなどの役割を担う利用者も多い。中には、職員が針に糸を通すと、編み物が得意な利用者が、雑巾を縫ったり、ボタンを付けたりするなど、職員が手助けを行いながら役割を担ってもらい、手伝ってもらった後には、感謝の言葉を伝えるなど、張り合いのある日々の生活が送れるような支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	利用者一人ひとりにあったレクリエーションなどを提供し楽しみを持って頂き、またお手伝いでやりがいを持って頂けるように支援している。	○	○	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人に聞きながら、季節に応じた服装になるように選んでもらっている。				起床時に、職員は声かけ、自分で服を選んで着替え、身だしなみを整えることのできる利用者もいる。整容の乱れや衣服などの汚れが見られた場合には、職員がさりげなく声をかけてフォローをしたり、プライドに配慮し、居室に移動して着替えてもらったりするなどの支援に努めている。また、2か月に1回訪問美容の来訪があり、好みの髪型に散髪してもらっている。さらに、ベッド上で過ごすことが多い重度の利用者にも、毎日整容を行い、身体状態に応じて、なるべく昼間着とパジャマなどに着替えたもらうなど、メリハリのある生活が送れるような支援も行われている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	持ち物や衣類などは好みがよくわかっている家族様からの持ち込みやプレゼントがあったりする。				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	季節に合ったものを本人の意見を尊重しながら選んで頂けるように支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	コロナ過で交流は難しく、外出や行事が無く支援出来ない面もあるが、誕生日にはおしゃれな服を着て写真を撮る事が出来た。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	起床時には整容し、汚れ等に対しては個別にさりげなく対応している。	◎	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	だいたい2か月位のペースで美容店の方に来て頂いている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	起床時に顔の清拭整容保持に努めている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	健康状態を保つため、基本である食事の大切さを理解している。				職員の勤務体制もあり、事業所では食材の宅配サービスを利用し、調理済みのおかずが届けられ、湯煎などをして盛り付けるとともに、必要に応じて、各ユニットで炊飯や汁物を調理し、利用者に食器やお盆拭きなどを手伝ってもらいながら、食事を提供している。業者の管理栄養士が、バランスの摂れた献立が作成され、旬の食材のほか、ピラフやトマト煮などの洋風メニューは、利用者に喜ばれている。アレルギーの有無のほか、苦手な食材のある場合には、代替えの食材を用意することもある。利用者の状態に応じて、ユニット内でミキサー食や刻み食などの食べやすい食事の形態にも対応をしている。湯飲みは、利用者に持参してもらうほか、その他の食器類は、利用者の状態に合わせた使いやすしい物を使用している。食事の際に、職員は利用者の食事介助や声かけを行い、別々の時間帯に、休憩室で職員が用意した食事を摂っている。また、身体状態に応じて、居室で食事を摂っている利用者もいるが、基本的にリビングで一緒に食事をしてもらい、職員は献立の説明を行うなどの会話をしながら、同じテーブルでサポートをしている。さらに、利用者の誕生日には、特別メニューが提供され、利用者の楽しみにも繋がっている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食材の宅配サービスを利用しているため調理された食材が届けられる。おやつ作り、おぼん拭きなどは手伝ってもらっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	x	グループホームの畑で取れた野菜や筍の皮むぎ等、ニューなどを考えてもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	家族から情報やアセスメントの情報は職員間で共有している。カンファレンス時に共有しアレルギーの有無は把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の食材を取り入れ季節感を感じてもらっている。(つくしのたまごはり・タケノコごはん・ふかしたサツマイモ)など			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	その人の咀嚼、嚥下状態に応じて 一口大 キザミ ミキサー食おかゆなどに対応している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	利用者一人ひとりにあわせ 食器や握りやすいスプーンに対応している			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	同じテーブルに職員も座り介助をしながら利用者の目配りをして、食べこぼし等に対するサポートをしている			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	ワンフロアになっている為、料理中の匂いも分かる。又カウンター越しに食材の盛り付けも見ることが出来る	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	個人記録簿に、一人ひとりの利用者の食事量・水分量の記録をしている				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	一口大キザミ ミキサー食にて対応 必要に応じてトロミを加えている。水分摂取量の少ない方は好みの飲み物を提供している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	献立は業者委託 調理方法は湯せん・水流解凍等で行う			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	厨房に入るときは手洗い消毒をし、まな板 食器 布巾はハイター除菌をする。食材の鮮度は留意している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	1日3回の口腔ケアに努めている。拒否のある利用者に対しては時間を置きタイミングを見計らって声掛けしている。また、口腔ケアシートを使っている。				毎食後に、職員は声をかけ、リビングにある2か所の洗面台を使用して、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。職員の介助を必要とする利用者も多くなってきているが、自分で歯磨きを行う利用者にも、職員は声をかけ、口腔内の状況を確認するよう努めている。また、今年初めて、協力歯科医が訪問してもらい、全ての利用者の歯科検診を実施してもらうことができ、今後、事業所として、歯科医の往診を継続するかを検討している。さらに、口腔内の異常が見られた場合には、家族に同行支援をお願いし、歯科医への通院に繋げている。加えて、義歯を使用している利用者には、週2回洗浄液に浸けて清潔保持に努めるとともに、中には、家族の要望により、毎日義歯を洗浄液に浸けている利用者もいる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食事の様子や口腔ケア時に口の中の状態をチェックしている。				
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診時などで話しを聞き口腔ケア時に活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夜間は義歯を外して頂き週2回ポリドント洗浄している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	自立されている方でも最終確認を行い清潔保持に努めている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ミーティングや、年間研修で学習理解している。				利用者に重度化に伴い、常時テープ式の紙おむつを使用している利用者が5名いるが、日中に多くの利用者は、リハビリパンツとパッドを使用して、生活を送っている。また、利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの利用者のタイミングに合わせて、職員は声かけやトイレ誘導などの支援をしている。中には、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。さらに、カンファレンスを活用して、利用者の排泄状況に応じて、パッドや紙パンツなどの排泄用品の使用を職員間で検討するとともに、過度なパッド類の使用になっていないかなどの確認をしている。加えて、各ユニットに1か所に、男性用の小便器が設置され、生活習慣から、時々使用する利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	排泄チェック表を確認して排便コントロールを行っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排便・排尿の兆候等)	◎	本人の排泄のパターンによりトイレ誘導の声掛けを行っている。便秘で排便の量が少ない時には下剤など使用している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	体調に合わせて、その時に合った状態に対応している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	話し合い、本人にベストな支援を探っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	定期誘導を行い排泄の有無を記録し時間を置き誘導している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	意思疎通の困難な方はカンファレンス等で話し合いご家族にも相談している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	業者とも相談し昼用、夜用を使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取量の少ない方にはご家族様と相談して好みの飲み物を提供している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	入浴日は曜日が決まっているが、2階に一般浴が設置してあり個別支援する事も出来る。	◎		◎	週2回、利用者は入浴することができる。利用者が入浴できる曜日は決まっているが、体調面や状態などを確認しながら、日にちを変更するほか、湯船に浸かる長さや湯の温度などの希望に応じて、リラックスして入浴できるよう、柔軟に対応している。1階の浴室にはリフトが設置され、立位が取れないなどの利用者の状態に合わせて、2階にある個別浴槽と使い分け、利用者が安心安全に湯船に浸かれるよう支援している。中には、2階にある個別浴槽を活用して、毎日入浴を楽しむ1名の利用者もいるが、職員の勤務体制もあり、入浴介助の必要な利用者の対応までは難しい状況となっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだり気分が入浴できるよう支援している。	○	本人の体調に合わせて入浴して頂いている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来る所はして頂き声掛け見守りを行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒否のある時は時間を置き別の職員が声掛けを行っている。入浴をされない時は全身清拭・着衣交換を実施している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎朝健康チェックをし体調の確認をしている。入浴後は水分補給をして頂き声かけなどを行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	1人ひとり24時間記録に記入している。	/	/	/	事業所には、入居前から睡眠導入剤や安定剤を継続して服用している利用者があるほか、入居後の状態により、医師に相談し、服薬を開始した利用者もいる。また、服薬している利用者の状態を医師に伝えるとともに、利用者の生活リズムや過度な服薬になっていないかを確認するなど、総合的な支援も行われている。さらに、事業所として、なるべく服薬に頼ることなく、日中の体操や散歩などの活動量を増やしたり、外気浴を取り入れたりするなど、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中活動に参加して頂き昼夜逆転しない様に留意している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	毎日体操レクリエーション等を行っている。医師と相談しながら眠剤や安定剤を検討している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	体調に合わせて居室静養して頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。	○	家族に電話したいと言われるときには、職員が電話をかけ自室で話をしてもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	職員が電話を掛ける、話を本人に持ち掛けたりして、家族に声を聴いてもらったり状態報告をしたりしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	自室で話をしてもらっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に、いつでも見られるよう保管してもらっている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族には、月に一度のおたよりに今の状態を報告し協力して頂ける様お願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	自分のお金で好みのものを買ひ、笑顔や満足感を感じてもらいたいと、日頃から思っている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	コロナ禍が落ち着いたら、買い物・外出に出かける機会を作り買い物先の理解と協力をさせていただけるよう働きかけたい。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	買い物・外出ができるようになれば、ご家族とも相談し、買い物先へも理解や協力を得る働きかけをしていこうと思っている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人や家族と相談し必要に応じて使えるようにしている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	毎月のお手紙に出納帳のコピーを同封し確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	状況ニーズに合わせて、家族さんとの情報交換をし柔軟支援を心掛けている。	◎	/	○	コロナ禍が続き、面会や外出などの制限が設けられ、可能な範囲で、利用者や家族から出された要望には、柔軟に対応をしている。コロナ禍から、窓越しの面会に対応をしたり、感染対策を十分に講じた上で、家族との外出にも対応したりすることができていた。現在は、地域交流室での15分程度の対面形式での面会が可能となり、毎日面会に訪れる家族もいる。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関には、利用者さんと一緒に作った壁画や職員の写真を展示している。テラスの前に花壇を作り季節の野菜を植えたり草引きや収穫をしている。散歩中の方に声をかけていただく事もある。	◎	○	◎	事業所の前には駐車場が完備され、家族等は車で来訪しやすくなっている。道路や玄関周辺から、来訪者が1階にある地域交流室の様子を見ることが出来るほか、玄関はガラス扉のため、事業所の中から、来訪者の様子を気づきやすくなっている。また、玄関には職員紹介の笑顔の写真が貼られ、事業所の明るい雰囲気も感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていない等。)	○	毎月利用者さんと一緒に作った壁画を飾り、ホワイトボードにひだまり新聞や写真を掲示している。	○	◎	○	採光が入り明るいリビングから、庭のテラス越しに洗濯物が干され、家庭菜園の様子が見えるなど、生活感や季節感を窺うことができる。毎月、利用者と職員が一緒に手作した壁画が飾られ、訪問調査日には、木々の紅葉をモチーフにした作品が飾られていた。また、リビングにはテーブル席やソファが置かれ、利用者は新聞などを読みながらくつろいだり、レクリエーションを楽しんだりするなど、思い思いの場所で自由に過ごすことができる。さらに、廊下にもエアコンや空気清浄機が設置され、利用者が居室から出た際に、急激な温度変化を感じないようにしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日、朝・夕とアルコール消毒し掃除をしている。必要に応じて消臭、除菌スプレーを使い、換気もしている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	天気の良い日には、テラスで日光浴をしたり花壇の花や野菜が出来具合を見に行き草引きをすることもある。	/	/	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	本人の意思も尊重しながら、他者との交流ができる様、居場所の工夫をしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	テレビや安楽椅子など、使い慣れた物を持参して頂いている。	○	/	○	居室にはベッドとクローゼット、エアコンが備え付けられている。利用者は、テレビのほか、使い慣れた家具などの希望する物を持ち込むことができる。また、海岸沿いの散歩の際に、拾い集めた石や植物を飾ったり、お気に入りの新聞記事の切り抜きを貼ったりするなど、利用者 に合った居心地の良い空間づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	洗濯物を干し・たたみ・床のモップかけなど、出来ることをお願いし、労をねぎらいやりがいを感じてもらっている。	/	/	○	居室の入り口には利用者の氏名が貼られているほか、花の飾りの目印を付けるなど、利用者が認識しやすいように工夫をしている。トイレを「便所」や、ペーパータオルを「おてふき」などの言葉で表記するほか、色を変えて分かりやすく表示している。また、リビングには日めくりカレンダーのほか、大きなカレンダーも掛けられ、その日の日付を分かるようにしている。さらに、居室の収納ボックスには、上着や肌着などの収納する場所が分かるように、シールが貼られている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	雑誌はテーブルの上に置いている。その他の物は、必要時に手渡している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らすこと、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	年4回の身体拘束適正委員会を開催し職員全員が弊害について学習し理解につなげている。	◎	◎	◎	研修等を通して、職員は鍵をかけることの閉塞感などの弊害を理解している。日中に玄関の施錠をしておらず、夜間のみ防犯のため施錠をしている。ユニットの入り口には、センサーチャイムが設置され、職員は利用者や来訪者の出入りを分かりやすくしている。また、外に出たい利用者には、職員が付き添って一緒に外に出たり、ゆっくりと話を聞いたりするなど、落ち着いたような対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族と相談し必要に応じて対応している。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	介護計画制作時にアセスメントを作成して把握に努めている	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝、健康チェックを行い、異常があれば記録や申し送りをし必要に応じて病院受診も支援している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医や訪問看護師が来所されたとき以外でも、電話やファックスで相談している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	主治医に相談しながら、本人や家族が希望する医療機関へ受診できる様に支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人や家族と相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診が必要な際には、家族に連絡し合意を得ている。受診結果は、電話にて報告している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際には本人に関する情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者と密に情報交換し関係者との関係作りに取り組んでいる				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護師、主治医に日々のバイタルを報告し必要に応じて指示、助言を受けている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間いつでも担当医に相談出来る体制がとれている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の健康状態を情報交換し変化が見られる利用者については主治医、訪問看護師に相談し必要であれば受診等を相談している				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	個々の処方せんを確認しながら服薬確認を行っている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	日付、毎食後のお薬を利用者別に仕分け管理する事で飲み忘れや誤薬を防ぐよう取り組んでいる				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	新しく処方された薬や変更された薬については薬剤師にお聞きし副作用に注意している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に終末期のあり方の確認を行っており状態の変化に応じて家族と話し合いを行っている				事業所として、今までに看取り支援の経験をしたことがあるものの、事業所の協力医・主治医の考えもあり、終末期に、利用者になるべく苦しまず、身体負担がないように入院を視野に入れた支援をしている。また、状態の変化や重度化した場合には、利用者や家族に、終末期のあり方を聞くとともに、関係者を交えて話し合い、方針を共有している。さらに、医療行為が必要になった場合には、病院等に転院する利用者が多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	ご家族の希望に基づき今後の対応等について医師とも話し合い方針を共有している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期に入る段階でどのように最後を迎えてもらいたいと話合っている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	「できること・できないこと」でどのように対応していくかお伝えし家族の希望を確認しながら理解を得るようにしている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度や終末期のケアについてはその都度話し合いの機会を持ち意向を確認するようにし医療とも連携が図れるようにしている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	話を伺ったり家族が本人にしてあげたい事への協力をしている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修、勉強会に参加し具体的な予防策、早期発見、早期対応等について学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアル作成や準備物は整っており、4・9月に訓練も実施した				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	感染症センターの状況確認や行政からの周知により情報入手し指示に従って対応している				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関、トイレ等に消毒用品を設置し手洗い等行えるようにしているがうがいは中々実践出来ていない				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族の面会時には現状報告を行ったりご家族の話を聞く機会を設けている				以前開催していた家族会を、現在は休止をしているほか、感染対策で、外出や面会などの制限が設けられ、家族の参加できる行事の開催も自粛している。管理者は、令和6年の初詣などの外出時に、家族も一緒に参加できることを考えており、今後は家族との交流できる機会の再開も期待される。また、コロナ禍で窓越し面会の対応をしていたが、感染対策が緩和され、現在は地域交流室を活用した対面の面会対応が可能となっている。さらに、毎月のひだまり新聞の発行に合わせて、担当職員が書いたお便りを添えて送付するなど、定期的に事業所内の行事のほか、利用者の様子を伝えることができています。中には、入居の期間が長い利用者も多く、面会時に家族と世間話などの会話のできる関係が築かれ、野菜の差し入れをもらうなど、意見や要望を伝えやすい雰囲気づくりが行われている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、交流室での面会にて対応している、外出は短時間に限定している	x		△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	面会時には現状の報告を行っており毎月のお便り、新聞にて様子をお伝えしている		◎	◎		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族との話し合いで何が必要で大切なのか、家族との関係の理解に努めている					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議の場で報告を行っている		○	○		
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについては面会時などにその都度説明を行っておりその人らしい生活ができるよう家族等と話しあっている					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来訪時に声掛けを行い、気掛かりな事や意見、希望をお聞きするように連絡もしている			○		
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約の際には具体的にお話しし、家族にわかるように説明している					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居時には家族と充分な話し合いを行い退居時支援できるよう配慮している					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	2ヶ月に一回運営推進会議を開催し、理解を深める機会を続けている		◎		定期的に、事業所では、地域の小学生が来訪して交流をしたり、中学生の職場体験を受け入れたり、高校生がクリスマスカードを届けてくれるなど、地域の学校やボランティアとの交流を再開している。また、地域住民から、野菜などの差し入れをもらうこともある。管理者は、「地域の文化祭などの行事が再開されれば、参加したい」と考え、地域との関わりを模索している。さらに、事業所の1階には、地域交流室を設置しているが、現在は感染対策で地域住民への開放を休止している。今後は、少しずつ利用者と一緒に地域行事に参加したり、感染対策を講じながら、運営推進会議を活用して、地域交流室の活用の再開を周知したりするなど、職員間で検討していくことも期待される。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常の挨拶を心掛け、地域での活動や行事に参加し、交流している		x	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	学校行事などに声をかけて頂く事が増えている					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	学校とのつながりもあり、マスクや消毒など安全対策をし、子供たちにも来て頂いている					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	出勤時や散歩時には、挨拶や声かけを心掛けている。また、観光で来られた方など、気軽にトイレを利用して頂いている					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	x	コロナ対策の為、地域交流室での活動は控えている					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	避難訓練時には消防署の方に来て頂き、熱中症予防の講習なども受けている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	推進メンバーにより、コロナ感染対策を行い実施している	△	/	○	運営推進会議は、利用者や家族の代表者のほか、近隣住民、民生委員、婦人会長、高等学校長、保育所長、他の事業所の管理者、市担当者等の多方面からの参画を得て、地域交流室を活用して、井戸端会議のような気さくな雰囲気で行われている。会議では、事業所の活動報告や事故報告・ヒヤリハット報告のほか、利用者の様子などを事業所新聞を活用しながら参加メンバーに伝え、意見交換が行われている。また、外部評価のサービスの評価結果や目標達成計画なども報告することができている。コロナ禍が続いている中でも、感染対策を講じながら、集合形式の会議を開催する工夫が行われていた。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	自己評価、外部評価は公表し、会議でも取り上げるようにしている	/	×	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	早めに日程調整と参加の呼びかけし、出席しやすい工夫している	/	/	○	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	年間研修にて理念についてのテーマを上げ、それを心掛け取り組んでいる	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関や地域交流スペースに掲示し、地域の方や入居者、ご家族様にもわかりやすくしている	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	地域密着型サービス協会の研修や、法人内研修などに参加を促し取り組んでいる	/	/	/	法人の代表者は、毎月1回程度は事業所を訪れて、利用者の様子を見るほか、職員から話を聞いている。年に数回、代表者は数名の職員と面談を行い、職員から意見を聞くとともに、事業所内の様子などを確認している。日頃から、管理者は事務長に電話で事業所の状況を報告したり、相談に応じてもらったりすることができるほか、月1回の所長会で他の施設や事業所の管理者と意見交換をしている。また、内部研修等を取り入れ、職員のスキルアップを図るとともに、目標管理シートで目標等を提出してもらい、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、職員への福利厚生のほか、希望休や有給休暇の取得を促すなど、職員同士の良好な関係も築かれ、働きやすい職場環境にも繋がっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月行うカンファレンスの場でテーマを決め、資料作成しスキルアップを図っている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	各職員に目標管理シートを作成させ、個人の目標を明確にし、向上が持てるよう努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	グループホームの連絡会の情報交換などで各施設の取り組み状況などの情報共有している	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	各部署の代表者を集めた所長会で意見をもらったり対応して頂いている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	カンファレンスや研修にて話し合い理解を深めている	/	/	/	◎ 定期的に、身体拘束適正化委員会等を開催して、職員間で話し合うとともに、内部研修の中で、虐待や不適切ケアの防止などのテーマを取り上げ、職員は理解をしている。職員は、「年4回研修があることで、その都度日頃のケアを振り返るきっかけになっている」と感じている。また、実際の声かけやケア事例をもとに、職員間で対応を話し合ったり、グレーゾーンチェックリストのアンケートを実施したりするなど、より良い理解の促進にも努め、意識した対応が行われている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	カンファレンスや職員ミーティングで情報を交換し話し合うことができている	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の対応によっては利用者さんのケアの質が変わる。ことを理解しており職員にストレスがかからないよう最大限の注意を払い接している	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的に身体拘束適正化委員会を行い、資料を回覧して周知できるように配慮している	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	毎日のミーティングで話し合い、事例をあげて理解を深めるようにしている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居者様の現状を電話や面談時に伝え、身体拘束を行わない、ケアの取り組みに努めていることを説明し、理解して頂いている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	研修等から成年後見制度に対する理解に努めている				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	今は対象者は居ないが、今後どのような時も対応はできる				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変のリスクが高い方に関しては特に対応、別に書き出して目に付く場所に掲示しスムーズに対応できるようにしている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に行われているが消防署や本部での研修に参加して皆に周知している				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	小さなことでもヒヤリハットにまとめて閲覧しすぐに改善できるようにしている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンス時に個人個人について詳しくチェックをして対応を検討したり朝のミーティングや夕方の申し送りでも様子を細かく伝えて事故防止に繋げている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルはないが年に2回苦情処理委員会を行って、外部や他部署の意見を求め会議録により参考にしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	現在の所苦情は寄せられていないが苦情対応一覧に基づき苦情が寄せられれば即座に対応し検討していく				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	ヒヤリハットや事故報告書を基に速やかに家族様へ内容や対応を行い職員へも再発防止を求め徹底している				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や面会時にご本人やご家族にも意見や要望を聞く機会を持っている	◎		◎	日々の会話の中で、職員は利用者から意見や希望を聞くとともに、表情や様子から思いをくみ取るなど、職員間で共有し、柔軟に対応をしている。家族から、面会時や電話連絡時などを活用して、意見や要望を聞くようにしている。また、管理者は現場で職員と一緒に業務を行い、日頃から職員の見解を聞き、相談にも応じるなど、職員が話しやすい環境づくりに努めていることもあり、職員は相談しやすいと感じている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約時に説明してから重要事項説明書をお渡ししている。掲示板にも掲示している				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	コロナ感染予防の為一時的に来所を控えられていたが、7月より再開されている				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎日のミーティングや職員が多く集うカンファレンス、認知症専門研修時に皆の意見を求め、より良い対応を検討している			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価結果により課題をスタッフ全員に周知しカンファレンスやミーティングにて取り組みを行ってまた、自己評価表を作り職員個人の目標をたてている				外部評価の自己評価は、職員の意見を取り入れながら、管理者等が取りまとめ、ユニット毎に作成をしている。また、全体会議等の中で、サービスの評価結果を報告するとともに、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、運営推進会議で、評価結果や目標達成計画、目標達成に向けての取り組み経過などを報告することができている。今後は、目標達成の取り組みの状況などを参加メンバーや家族に伝える際に、モニターとしての役割を担ってもらえるように、事業所内の様子を確認してもらい、助言やアドバイスなどを聞きながら、サービスの質の向上に繋げることも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果を基に現状の把握と課題への取り組みを明確にして対応している				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進メンバーは市の職員、利用者の家族にも参加して頂いており外部評価の結果についても理解して頂いている	○	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ケアカンファレンスや運営推進会議などで報告し成果を確認している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	まだまだ改善するところはあるものの最新の情報を取り入れマニュアルを作成し周知している	/	/	/	年2回以上、様々な災害や昼夜を想定した避難訓練を実施している。訓練では、階段を使用して2階に上る垂直の避難訓練を実施し、消防署から階段を上る際に、利用者を乗せた安全な毛布の持ち方などのアドバイスを受けている。また、近隣にある長浜高校の校長と話し合い、地震や津波が発生した際に、校舎の一部を避難場所として活用する許可をもらい、事業所から見える場所にある裏門を開放してもらっている。さらに、地域や事業所周辺で暮らす住民の高齢化もあり、災害が発生した場合には、事業所の徒歩圏内に住む職員を含む、10名の職員にも緊急時の一斉通報の電話が入り、迅速な協力体制も整えている。今後は、家族や地域住民に対して、安心安全な災害への備えがより理解してもらえるように、事業所新聞を活用して、訓練の様子を報告したり、運営推進会議や家族会等を活用して、災害対策を話し合ったりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防署立会いのもと主に夜間想定での様々な災害を想定して訓練を実施している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	業者による定期点検を行っている。非常食、備蓄水についても期限内に消費して新しいものと入れ替えている	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	長浜高校を避難場所として裏門より2階へ外階段を通して避難できる様、校長先生と話し合い許可を頂いた	△	×	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	日中であれば長浜高校生も避難への協力が得られるとの事で合同での避難訓練、消防署立会いのもと行っている	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナ禍の中、十分な活動は出来ていないがチラシ作成など来所者に見て頂くよう準備はしている	/	/	/	地域の介護支援専門員から、入居相談が入ることが多いほか、地域住民から相談が寄せられた場合には、適切に対応をしている。市行政や地域包括支援センターなどと、良好な関係が構築され、連携を図ることもできている。また、市のグループホーム連絡会で、市内の他のグループホームと連携を図るとともに、相互の運営推進会議に、管理者が参画する取り組みがあるなど、情報交換を行うこともできている。さらに、玄関先の掲示板などを活用しながら、地域住民に周知を図る取り組みも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば応じる事が可能、対応が困難な場合は市への相談に繋ぐ事としている	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ禍の為現在は交流活動等は行えていないが終息した際には活用していく	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	現在、コロナ禍の為行えていないが終息した際にはまた実習の受け入れを再開する	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市のグループホーム連絡会に参加して市や他事業所との情報交換を行い連携を密にしていたがコロナ禍で中止となり書面や電話、ファックスにて情報を頂き活動している。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 10 月 27 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3890700085
事業所名 (ユニット名)	グループホーム春の風 2階
記入者(管理者) 氏名	徳森 利弘
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 8 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>ここにはぬくもりがあり よるこびがあり笑顔がある</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①コロナ過の中、外出自粛をしている、利用者様のストレス軽減を図りたい。 コロナ対策し、出来るだけ面会の機会を設けて大勢の方に来訪していただき、寂しさやストレス軽減につながったものと思われます。 ②利用者様各自が出来ることを手伝ってやりがいや生きがいを見つけて気分転換して頂く。 草引きなど花壇の手入れや野菜の種まき苗植え、取り入れなど手伝ってもらって外気浴を楽しみ気分転換につながったものと思われます。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>水族館部で全国的に有名な長浜高校の近隣にある事業所は、ベランダから海の絶景を眺めることができる。法人は、大洲市内で障がい者支援施設などの複数の施設・事業所を展開し、定期的に、法人間での職員の人事異動も行われている。コロナ禍などの感染対策が続く中でも、事業所では、集合形式の運営推進会議開催を基本とし、多方面から多くの参加メンバーを得て、継続して開催することができている。また、地域の学校との関わりも多く、小学生が事業所を訪問したり、中学生の職場体験を受け入れたり、高校生がクリスマスカードを届けてくれるなど、多くの交流が再開できるようになってきている。さらに、事業所の1階には、地域交流室が設置され、家族との対面での面会に使用しているほか、現在は地域住民への開放は休止しているものの、感染対策を講じながら、管理者は「休止していた地域交流室の貸し出しを再開したい」と考えている。管理者をはじめ、事業所での勤務経験の長い職員が多く、職員同士で相談し合ったり、助け合ったりすることのできるチームワークの良さが、利用者の笑顔や安心にも繋がっている。加えて、以前活き活きと山仕事をしてきた利用者の写真を居室に飾ったり、利用者が自宅でしていた味噌作りを、事業所内で手作りしたりするなど、好きな話題の提供や、以前していたことを継続してもらいながら、楽しみや喜びのある日々の生活を送れるような支援にも取り組んでいる。</p>
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	スタッフが担当利用者を受け持つ事で、利用者の細かい情報収集に努めている。	◎	/	◎	入居前に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、アセスメントシートの項目に沿って、思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。入居後も、日々の生活の中から、利用者の言葉を聞くとともに、表情や様子から、思いや希望をくみ取るよう努めている。また、職員は記録作業をする場合にも、利用者と同じテーブルの隣に座り、利用者とは話をしたり、様子を見聞きたりするなど、利用者寄り添いながら、職員の気づきを含めた記載を心がけ、記録に残すことができている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	普段とは違う表情の変化や生活の様子等で、本人の状況を把握できるよう努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会に来られた際や電話で話す際に状態を報告させて頂き、家族の方との関係を重視し意向も伺っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	入居者状況や経過観察記録等を毎日記入し、スタッフ間で情報共有に努めている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	毎日の生活の中で様子観察し、本人の意向に寄り添いスタッフ優先の支援にならないよう留意している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居申し込みの際の書類や家族等の近い方から、生活の様子を伺ったりしている。	/	/	◎	管理者は、利用者の生活歴や生活環境を重要視し、可能な場合には、事前に自宅を訪問し、利用者や家族と面談を行うようにしている。自宅が訪問できない場合には、施設や病院に向き、面接をしている。アセスメントシートには、生活歴や趣味などの項目が設けられ、これまでの暮らしや生活習慣などを聞き取れるようになってきている。また、入居前に利用していた介護サービス事業所の関係者のほか、介護支援専門員から情報を聞くなど、利用者一人ひとりの人物像の把握にも努めている。把握した情報は、アセスメントシートに記載し、職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の中で本人が出来る事・出来そうな事は、実際に試しながら判断している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	入居者状況に記録し、1日の生活リズムの把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人からの訴えや家族からの情報提供を基に、アセスメント作成に活用している。	/	/	○	利用者や家族から意見を聞くほか、アセスメント情報をもとに、利用者本人が何を求め、必要な支援は何かを、利用者の視点で検討をしている。担当者会議を実施する際に、必ず利用者の意見のほか、家族の意見や希望を確認し、記録にも残している。家族からは、「お任せします」という意見が聞かれることが多くなっている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	本人や家族の意向に沿ってケアプランを作成し、サービス提供に努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人の思いや意向を伺いながら、支援している。	/	/	/	アセスメント情報のほか、事前に把握した情報をもとに、利用者毎の担当職員が、介護計画の原案を作成し、計画作成担当者等と内容を検討しながら確認を行い、介護計画を作成している。また、利用者や家族の意見や希望のほか、関係者の提案を反映された介護計画の作成に努めている。さらに、アセスメントシートの情報は、介護計画の見直しに合わせて確認や更新を行い、現在の利用者の状態のほか、新たに知り得た情報を追記している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人や家族の意向を伺い、意向に沿ったプランを作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	医療面での処置が常に必要な状態にならない限り、いつもと変わらず同じ様な生活ができる様に努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	以前は、家族会やボランティアの方による交流もあったが、現在は、コロナ禍により実施できていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	月に1回カンファレンスを実施し職員間で計画の情報を共有している。	/	/	/	○ 利用者の介護計画は、すぐに確認できる場所に置かれ、職員は目標や支援内容を理解している。介護記録には、日中は黒字、夜間は赤字、看護師は青字で記載するほか、医療関係には◎、認知症状は☆、家族は△の印を付けて区分を行うなど、分かりやすく記載する工夫をしている。また、計画のサービスの項目毎に番号を振られ、計画に沿った実施状況の有無が分かりやすいように様式への記載が行われているが、番号の記載が活かしていない記録も見受けられるため、さらに実施状況が分かりやすくなるように、職員間で記録の仕方や様式の見直しなどを検討することも期待される。さらに、日々と変化した利用者の言動を記録に残すこともできている。加えて、約2年後には、介護ソフトを導入を予定しており、職員の記録等の負担軽減に繋がることも期待される。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日業務日誌を記入し利用者の状況に合った支援を行っている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的に再度確認を行い見直しを行っている。	/	/	/	◎ 介護計画は、6か月に1回見直しをしている。月1回のカンファレンスを活用して、職員間で話し合い、利用者一人ひとりの現状を確認するとともに、3か月に1回モニタリングを行い、評価をしている。また、モニタリングの記録には、目標達成状況などの評価を行うとともに、利用者や家族の満足度の確認を行い、記録に残すことできている。さらに、利用者の状態に変化が見られた場合には、必要に応じて随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月に1回カンファレンスを行い確認している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	家族や主治医と連携を取り本人の状態に合った計画を作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月に1回はカンファレンスやミーティングを行い、必要時には随時会議を行っている。	/	/	/	○ 月1回職員全体のミーティングと研修を実施するほか、ユニット毎のミーティングを開催し、事業所全体の情報共有のほか、利用者の現状確認などの話し合いをしている。緊急案件のある場合には、管理者に報告するとともに、その場にいる職員で検討して対応をしている。また、対応の経過や結果を記録に残すとともに、口頭で伝え、職員全員で共有するよう努めている。さらに、ミーティングなどは、開催日を月頭の同じ曜日に固定するとともに、職員は勤務状況により、無理がないような参加を促している。加えて、参加できなかった職員には議事録で確認してもらおうとともに、重要事項は口頭で伝達をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	各担当で提案しその事に対し職員間で話し合う事ができている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	開催日時は事前に周知しなるべく参加出来る様にしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	夜間帯・日勤帯の状態報告が行える様に日2回申し送りを行っている。	○	/	◎ 日々、朝夕2回の勤務交代時には、申し送りノートを活用して口頭で実施するとともに、利用者一人ひとりの24時間の様子や特変事項が一目で分かるように、入居者状況表で利用者の状態を確認している。また、出勤時に職員は休日分を遡って申し送りノートや入居者状況表を確認し、確認後には押印するなど、確実な情報共有に繋げている。1階ユニットでは、グループLINEが設けられ、職員間での情報共有に活用することもある。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	出来る事ややりたい事を見つけ実施出来る様にしている。	/	/	/	○ その日に着る服や、日中に何をしてお過ごしかなど、日常の様々な場面で、職員は利用者へ声をかけ、選択などの自己決定できるよう支援している。また、事業所で収穫した野菜の調理方法を、利用者について調理をしたり、利用者の誕生日には、やりたいことや食べたい物などの希望を聞き、ドライブスルーにハンバーガーを買いに行き食べたりするなど、食べたい物の自己決定の支援も行われている。さらに、以前に家で味噌作りをしていた利用者に教えてもらいながら、味噌作りに挑戦したり、おはぎや干し柿を作ったりするなど、利用者が懐かしく感じるような物を取り入れ、楽しさや喜びのある日々の生活が送れるような支援にも取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくる。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択肢を用意し本人に選択して頂ける様に声掛け等を行っている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	なるべく利用者自身のペースに合わせた支援に努めている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	軽作業の手伝いやレクリエーション、日常の会話を通して充実した生活が送れる様に努めている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情の変化、雰囲気を見て利用者へ合った支援が出来る様に努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	ミーティングで人権や個人の尊厳について学んでいる。職員も互いに声を掛け合い支援時の言葉遣いに気を付けている。	○	◎	○	○ 定期的に、利用者の人権や尊厳などを研修で学ぶとともに、職員には、日々の声かけや態度を考える機会を設け、職員間で話し合いをしている。管理者は「職員は利用者へ親しみがありつつも、プライバシーや人権に配慮した支援が行えている」と感じており、訪問調査日には、穏やかにゆっくりとした声のトーンで、職員が声かけをする様子を見ることもできた。また、職員は居室を利用者のプライバシーのある空間であることを理解し、入室時に、ノックや声かけを徹底している。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	利用者の自尊心を傷つけないように注意しながら支援している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	ノックをしたり声掛けをたりして出入りしている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	定期的に研修を行い個人情報保護、守秘義務について教育し厳守している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お手伝いをして頂いた際には感謝の気持ちを伝えている。洗濯干しや洗濯畳み等を協力して頂いている。	/	/	/	職員は、利用者同士の性格や関係性を理解している。認知症状などの進行に伴い、言い合いなどのトラブルが発生しそうな場合には、早期に職員が間に入って対応をしたり、配席などの考慮をしたりするなどの工夫を行い、大きなトラブルに発展していない。時には、利用者同士で気遣う場面も見られ、職員は関わりから生じる関係性を見守るとともに、他の利用者を気にかける世話好きな利用者が励ましの声かけをしてくれるなど、心遣いを大切にした支援にも努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が協力して生活が送れるように留意している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	職員が間に入り利用者同士が話しやすく良い関係で過ごせるように席の配置等注意している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが発生した際は職員が間に入り対応している	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や周りの方のお話でも情報を収集し職員間で共有している	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	ご家族様や友人からの情報は職員間で共有している	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	コロナ禍の為外出が難しかったが、施設周辺での散歩等、できる範囲で対応をしている	×	×	○	コロナ禍が続き、外出制限が設けられていたが緩和され、感染対策を講じた上で、家族と一緒に外出してもらうことができるようになってきている。日頃から、リビングからすぐに出られるテラスに出て、海などの景色を眺めながら外気浴をしたり、敷地内を散歩したり、敷地内にある畑で野菜作りをするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、外食までは控えているものの、好きな弁当を購入し、屋外で食べるなどの工夫もしている。さらに、ドライブをして、フラワーパークや喫茶店などに出かけられるようになってきている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	コロナ禍の為面会は制限があり、十分満足のいくような支援が出来なかったが、感染予防に努めながら最大限の対応を行っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	毎日の申し送りや状態の変化を伝達し個別に記録して、情報を共有し主治医や専門医にも相談しながら、その人に合ったケアが出来る様に努めている。	/	/	/	事前にアセスメントするほか、日々の生活の中で、利用者一人ひとりのできることやできないことをアセスメントシートなどに記載して職員間で把握し、自分でできることはしてもらい、職員は過度な口や手を出し過ぎることなく、待つ介護で見守りを行っている。また、毎日2回実施する体操やレクリエーションの際には、一人ひとりの利用者の身体状態に合わせたお手玉やピンポン玉入れ、ことわざなどを取り入れ、楽しめるような支援も行われている。さらに、平行棒を活用して、歩行訓練を行うなど、利用者の心身機能の維持にも努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	体操、レクリエーション・歩行訓練等で筋力維持の為身体を動かしてお手伝いなどの日常生活動作で身体能力の維持、向上に努めている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人が出来る事は見守りをし、出来るようなことがあれば一部介助しながら行っている	/	/	/	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	家族様からどの様な生活をされていたか、情報を職員間で共有している	/	/	/	事業所では、利用者一人ひとりの得意なことや好きなこと、習慣などを把握し、調理の下ごしらえや洗濯物の取り入れ、食器拭きなどの役割や出番を担ってもらえるよう支援している。洗濯物干しやたみ、草引きなどの役割を担う利用者も多い。中には、職員が針に糸を通すと、編み物が得意な利用者が、雑巾を縫ったり、ボタンを付けたりするなど、職員が手助けを行いながら役割を担ってもらい、手伝ってもらった後には、感謝の言葉を伝えるなど、張り合いのある日々の生活が送れるような支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	個人のレベルに合わせてレクリエーションを実施しお手伝いややりがいを持って頂けるよう支援している	○	○	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	髪型や服装等その人に合った衣類を着られている。本人の着たい洋服と一緒に選んで頂く事もある。				起床時に、職員は声かけ、自分で服を選んで着替え、身だしなみを整えることのできる利用者もいる。整容の乱れや衣服などの汚れが見られた場合には、職員がさりげなく声をかけてフォローをしたり、プライドに配慮し、居室に移動して着替えてもらったりするなどの支援に努めている。また、2か月に1回訪問美容の来訪があり、好みの髪型に散髪してもらっている。さらに、ベッド上で過ごすことが多い重度の利用者にも、毎日整容を行い、身体状態に応じて、なるべく昼間着とパジャマなどに着替えたもらうなど、メリハリのある生活が送れるような支援も行われている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	家族様から、誕生日や敬老の日のプレゼントの持ち込みがあり持ち込まれた衣類を喜んで着られている利用者が多い。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	季節に合った衣類を選んで頂けるように支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	コロナ禍の為行事がなく外出も出来なかった為支援出来ていない面もあるが、誕生日には家族持参の洋服にて写真撮影を行っている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	起床時には整容の乱れを直している。汚れた衣類等は声掛けしながら個別に交換等の対応を行っている。	◎	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	特に希望はない様子で、2～3ヶ月に1回のペースで美容店に来て頂き散髪を実施している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	これまで本人が使っていた洋服や、ご家族が持参された服を使って頂いている。本人の好みを尊重している。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	日常生活で健康を保つための基本となる食事の大切さを理解している。				職員の勤務体制もあり、事業所では食材の宅配サービスを利用し、調理済みのおかずが届けられ、湯煎などをして盛り付けるとともに、必要に応じて、各ユニットで炊飯や汁物を調理し、利用者に食器やお盆拭きなどを手伝ってもらいながら、食事を提供している。業者の管理栄養士が、バランスの摂れた献立が作成され、旬の食材のほか、ピラフやトマト煮などの洋風メニューは、利用者に喜ばれている。アレルギーの有無のほか、苦手な食材のある場合には、代替えの食材を用意することもある。利用者の状態に応じて、ユニット内でミキサー食や刻み食などの食べやすい食事の形態にも対応をしている。湯飲みは、利用者に持参してもらうほか、その他の食器類は、利用者の状態に合わせた使いやすしい物を使用している。食事の際に、職員は利用者の食事介助や声かけを行い、別々の時間帯に、休憩室で職員が用意した食事を摂っている。また、身体状態に応じて、居室で食事を摂っている利用者もいるが、基本的にリビングで一緒に食事をしてもらい、職員は献立の説明を行うなどの会話をしながら、同じテーブルでサポートをしている。さらに、利用者の誕生日には、特別メニューが提供され、利用者の楽しみにも繋がっている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	テーブル拭きや可能な後片付けをともにやっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	花壇で採れた野菜の下ごしらえを手伝って頂いている。食器やお膳拭き等も手伝って頂いている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	アレルギーに関しては、アセスメントシートやカンファレンス時に共有し、把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	アレルギーをふまえて季節感を感じてもらえるよう、旬の食材を取り入れるようにしている。トマトも植え収穫している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	咀嚼や嚥下は状態に応じて、一口大・キザミ・ミキサー食にて対応。必要時には、トロミ使用。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	家族にも協力して頂き、出来るだけ使い慣れた物を使用して頂いている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	スタッフと一緒に食事を摂る事は少ないが、食べやすいよう支援している。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	楽しい食事の時間にして頂けるように雰囲気作りを大切にしている。		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者ごとに、1日の食分量・水分量を毎日記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	利用者に合わせて飲み物を変えたり、時間をずらしたりして、都度状態をみながら工夫している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は、業者に委託している。調理法は、湯煎や流水解凍などを行うだけの簡単な物になっている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板やふきんをハイターで除菌し、食材の鮮度に留意している。毎日、台所周辺の清潔保持を心掛けている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	一日3回の口腔ケアに努めている。また、誤嚥性肺炎にならないよう口腔内の清潔保持。	/	/	/	毎食後に、職員は声をかけ、リビングにある2か所の洗面台を使用して、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。職員の介助を必要とする利用者も多くなってきているが、自分で歯磨きを行う利用者にも、職員は声をかけ、口腔内の状況を確認するよう努めている。また、今年初めて、協力歯科医が訪問してもらい、全ての利用者の歯科検診を実施してもらうことができ、今後、事業所として、歯科医の往診を継続するかを検討している。さらに、口腔内の異常が見られた場合には、家族に同行支援をお願いし、歯科医への通院に繋げている。加えて、義歯を使用している利用者には、週2回洗浄液に浸けて清潔保持に努めるとともに、中には、家族の要望により、毎日義歯を洗浄液に浸けている利用者もいる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアを確実にし、口の中の健康チェックをしている。	/	/	/	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	二宮歯科と連携を取り、アドバイスを受けている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夜間は義歯を外して頂き、週2回のポリデント洗浄をしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	口腔ケアを徹底し、口腔内の状態を把握を行い異常時には、往診の依頼を行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	夜間はオムツ対応の方でも、状態に合わせて日中はトイレ誘導を行い紙パンツ・パッドで対応している。	/	/	/	利用者に重度化に伴い、常時テープ式の紙おむつを使用している利用者が5名いるが、日中に多くの利用者は、リハビリパンツとパッドを使用して、生活を送っている。また、利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの利用者のタイミングに合わせて、職員は声かけやトイレ誘導などの支援をしている。中には、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。さらに、カンファレンスを活用して、利用者の排泄状況に応じて、パッドや紙パンツなどの排泄用品の使用を職員間で検討するとともに、過度なパッド類の使用になっていないかなどの確認をしている。加えて、各ユニットに1か所に、男性用の小便器が設置され、生活習慣から、時々使用する利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	精神面だけでなく、身体にも影響があるため、薬や腹部マッサージ等で対応している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表・日中・夜間の記録を確認し把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	それぞれの方の状態や適性を都度検討しながら対応を行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	カンファレンスやこまめな話し合いにて最善の対応ができるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	日誌などの記録を見て、1人1人の排泄間隔を確認しながら声かけや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	今までに使っていなかったタイプの物を使用するには、家族に相談し検討している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	1人1人の、その時の状況によって使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	機能訓練や体操などを定期的に取り組みながら、なるべく自然排便を促している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	現在は、週に4回、月、火、、木、金と1ユニットごとに入浴している。個人の希望は、各スタッフが確認している。血圧の状態を見ながら、毎日入浴される方もいる。	◎	/	◎	週2回、利用者は入浴することができる。利用者が入浴できる曜日は決まっているが、体調面や状態などを確認しながら、日にちを変更するほか、湯船に浸かる長さや湯の温度などの希望に応じて、リラクセスして入浴できるよう、柔軟に対応をしている。1階の浴室にはリフトが設置され、立位が取れないなどの利用者の状態に合わせて、2階にある個別浴槽と使い分け、利用者が安心安全に湯船に浸かれるよう支援している。中には、2階にある個別浴槽を活用して、毎日入浴を楽しむ1名の利用者もいるが、職員の勤務体制もあり、入浴介助の必要な利用者の対応までは難しい状況となっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	個人の状態の把握に努め、快適に入浴できている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	ご自身が出来るところは、して頂いている。安心して入浴できるように努めている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒否の原因把握、理解に努め、翌日にしたり、午後、声をかけたり無理のないように対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	夜間帯の記録、健康チェックを確認し、入浴の可否を相談している。入浴後も、整容時や水分補給時にも様子観察している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間帯の覚醒時間、睡眠状態を把握している。	/	/	/	事業所には、入居前から睡眠導入剤や安定剤を継続して服用している利用者があるほか、入居後の状態により、医師に相談し、服薬を開始した利用者もいる。また、服薬している利用者の状態を医師に伝えるとともに、利用者の生活リズムや過度な服薬になっていないかを確認するなど、総合的な支援も行われている。さらに、事業所として、なるべく服薬に頼ることなく、日中の体操や散歩などの活動量を増やしたり、外気浴を取り入れたりするなど、夜間に利用者が良眠できるように支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中のレクリエーションや体操に参加して頂き、昼夜逆転しないように留意している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	入居者の方の精神状態を専門医や主治医との連携を図り適度な支援をしている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	必要な方は、午前、午後と静養していただいている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があった際には、希望に添えるように対応している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	名前や簡単な内容にすることで少しでも思いを伝えられるように工夫している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	居室でもコードレス電話機にて話しやすい空間作りをしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人にみてもらった後も、居室へ飾っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	本人の不穏時など、ご協力の電話をすることを理解して頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	スタッフ一同理解している。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近所にあるスーパーや商店に声掛けし、イベントのポスターを貼らせて頂いたことがある。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族の協力のもと、日用品の買い出しなどでお金を預らせて頂いている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	家族の希望もあり、金庫に保管している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	預かったお金は必ず、その時にお預り証へ記入し領収書をお渡している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	1人1人に合わせ、住みやすい環境作りや人間関係を築いていけるよう支援している。	◎	/	○	コロナ禍が続き、面会や外出などの制限が設けられ、可能な範囲で、利用者や家族から出された要望には、柔軟に対応をしている。コロナ禍から、窓越しの面会に対応をしたり、感染対策を十分に講じた上で、家族との外出にも対応したりすることができていた。現在は、地域交流室での15分程度の対面形式での面会が可能となり、毎日面会に訪れる家族もいる。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	誰が来られても入りやすいよう自動ドアを設置しパンフレット等を置いている。	◎	○	◎	事業所の前には駐車場が完備され、家族等は車で来訪しやすくなっている。道路や玄関周辺から、来訪者が1階にある地域交流室の様子を見ることができ、玄関はガラス扉のため、事業所の中から、来訪者の様子を気づきやすくなっている。また、玄関には職員紹介の笑顔の写真が貼られ、事業所の明るい雰囲気も感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	住みやすさを重視し各居室は個人が親しんだ物を置いている。共同スペースは雰囲気に合った物を設置することで心地よい空間になるよう努めている。	○	◎	○	採光が入り明るいリビングから、庭のテラス越しに洗濯物が干され、家庭菜園の様子が見えるなど、生活感や季節感を窺うことができる。毎月、利用者と職員が一緒に手作した壁画が飾られ、訪問調査日には、木々の紅葉をモチーフにした作品が飾られていた。また、リビングにはテーブル席やソファが置かれ、利用者は新聞などを読みながらくつろいだり、レクリエーションを楽しんだりするなど、思い思いの場所で自由に過ごすことができる。さらに、廊下にもエアコンや空気清浄機が設置され、利用者が居室から出た際に、急激な温度変化を感じないようにしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、掃除を実施し、光が気になる場合には、視界に入らないよう隠すなどしている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	その月にあった壁画を毎月飾る事で季節感じられるようにしている。簡単な折り紙での作業等は手伝ってもらい、刺激のある時間を送って頂いている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	昔話で盛り上がりたり、居室で静養中でも音が聞こえたり刺激になるように工夫している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	扉を閉め内部が見えないような素材を使用している。	○		○	居室にはベッドとクローゼット、エアコンが備え付けられている。利用者は、テレビのほか、使い慣れた家具などの希望する物を持ち込むことができる。また、海岸沿いの散歩の際に、拾い集めた石や植物を飾ったり、お気に入りの新聞記事の切り抜きを貼ったりするなど、利用者にとって合った居心地の良い空間づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレや居室が分かりやすいよう、それぞれの場所に張り紙やネームプレートを使用している				○ 居室の入り口には利用者の氏名が貼られているほか、花の飾りの目印を付けるなど、利用者が認識しやすいように工夫をしている。トイレを「便所」や、ペーパータオルを「おてふき」などの言葉で表記するほか、色を変えて分かりやすく表示している。また、リビングには日めくりカレンダーのほか、大きなカレンダーも掛けられ、その日の日付を分かるようにしている。さらに、居室の収納ボックスには、上着や肌着などの収納する場所が分かるように、シールが貼られている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者の目の届く所に置ける物は置き活動意欲を感じてもらえるよう工夫を行っているが、危険なものは置いていない				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	玄関や出入口に鍵をかけず常に気楽な生活を送ってもらえるようにしているが徘徊のある利用者がある為気を付けている	◎	◎	◎	研修等を通して、職員は鍵をかけることの閉塞感などの弊害を理解している。日中に玄関の施錠をしておらず、夜間のみ防犯のため施錠をしている。ユニットの入り口には、センサーチャイムが設置され、職員は利用者や来訪者の出入りを分かりやすくしている。また、外に出たい利用者には、職員が付き添って一緒に外に出たり、ゆっくりと話を聞いたりするなど、落ち着けるような対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	安全を第一に考えた時施錠する事を、全利用者様家族に説明し理解して頂いている				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	個人情報シートを確認し把握している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日のバイタルチェックや一日2回の検温をし異常があった場合や急変時の異常等記録にのこしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医や看護師に、気になる事があれば、相談出来ている。気軽に相談出来る良好な関係を築いている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人のかかりつけ医や医療機関の把握をしサポート出来る様になっている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人や家族の希望をふまえ、グループホームのかかりつけ医と連携して医療が受けられるように支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診・通院の前には必ず家族に相談・報告し状態を把握して頂いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	グループホームでどのような不安があったか、どのような対応が良かったか本人のストレスや負担の軽減ができるよう影響のない情報を提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院担当者と密に連絡を取り現状把握に努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	週に一回、訪問看護師が来た際、気になった事や薬の変更など伝えている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間いつでもかかりつけ医へ連絡出来る体制が出来ている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタルチェック・昼食後の検温を行うことにより早期発見・治療につなげている。気づきがある場合、いつでもスタッフ間で相談している				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	往診時薬の変更がある場合、申し送り伝達している。分からない事は医師や薬剤師へ相談している。本人の状態の変化など個人記録に記入し家族や医師等に情報提供出来ている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬セットの段階から2名で確認し、服薬介助も2名で声に出して名前を呼び確認後服薬して頂いている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	副作用や気になる事があれば医師・薬剤師へ相談している。また、医師の許可の上、こちらで利用者様の状態を診ながら調整する事もある				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	グループホームで看取りを希望されるのか、状態変化していく中で治療方針等家族と話合っている。また、家族様とスタッフで主治医へ今後の治療方針等の相談を行っている				事業所として、今までに看取り支援の経験をしたことがあるものの、事業所の協力医・主治医の考えもあり、終末期に、利用者になるべく苦しまず、身体負担がないように入院を視野に入れた支援をしている。また、状態の変化や重度化した場合には、利用者や家族に、終末期のあり方を聞くとともに、関係者を交えて話し合い、方針を共有している。さらに、医療行為が必要になった場合には、病院等に転院する利用者が多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	家族の気持ちや方針は変化しやすくその都度スタッフ間で共有している。家族様とスタッフで主治医の元へ相談に行っている	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期の利用者の細かい変化の相談、グループホームで出来る支援の助言等をしてもらっている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	グループホームで出来る事と医療機関で出来ない事をその都度お伝えし理解して頂いている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	家族の希望があればグループホームでの看取りを行っている。これまでも主治医と連携し、看取りを行ったケースがある。今後スタッフのスキルアップを目指し経験を積みながら体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	情報交換を行っていく中で家族の事情や背景を考慮しながら気軽に相談してもらえるような関係を築いている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	出勤時にはアルコール手指消毒・検温測定している。体調面に不安がある際には早めに所長へ相談している。感染対策の年間研修を受けている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症マニュアルを作成している。汚物処理の際に必要な物品を準備している。一日2回対策として手すりなどの消毒を行っている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	職員同士の細やかな情報交換や、カンファレンス時・申し送り時に話し合っている。保健所や行政の指示に迅速に対応するよう努めている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時にはアルコール消毒・検温・手洗いをしている。来訪者も施設内に入られる際には、消毒・検温・聞き取りを行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	職員は日頃から信頼関係を築けるよう努めており、何かと気軽に双方が相談して一緒に本人を支えている。	/	/	/	以前開催していた家族会を、現在は休止をしているほか、感染対策で、外出や面会などの制限が設けられ、家族の参加できる行事の開催も自粛をしている。管理者は、令和6年の初詣などの外出時に、家族も一緒に参加できることを考えており、今後は家族との交流できる機会の再開も期待される。また、コロナ禍で窓越し面会の対応をしていたが、感染対策が緩和され、現在は地域交流室を活用した対面の面会対応が可能となっている。さらに、毎月のひだまり新聞の発行に合わせて、担当職員が書いたお便りを添えて送付するなど、定期的に事業所内の行事のほか、利用者の様子を伝えることができている。中には、入居の期間が長い利用者も多く、面会時に家族と世間話などの会話のできる関係が築かれ、野菜の差し入れをもらうなど、意見や要望を伝えやすい雰囲気づくりが行われている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	コロナウイルス感染症等の感染状況により、外食や外出等一緒にして頂いています。施設の行事は今年も中止している状況です。	x	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	各担当職員が毎月利用者の様子をお便りに記入しお伝えしている。グループホーム内の様子が分かる新聞も同封している。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	来訪時や電話連絡にて情報交換を行い、本人や家族の意思を把握し支援している。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	各担当職員が毎月お便りに記入し情報を提供している。毎月送付するグループホームの新聞にも掲載している。	○	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	職員間や上司と意見交換をしリスクを伴う状況があれば、家族に説明し対応している。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さまにお便りや電話連絡などの情報提供を通して来訪時に気軽に相談して頂けるよう努めている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	所長より資料を添え説明し、理解して頂ける様にしている。(サブリーダーは、所長に教育を受けながら携わる)	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	医療行為が必要となったり、グループホームでの生活が困難となり退所になる場合、家族や主治医と十分に連絡を取り合い、その都度状態を説明し話し合い、納得して頂ける様にしている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	事業所の設立前より、地域の方とお話をさせて頂いており、目的や役割について説明し理解して頂ける様に努めている。	/	◎	/	定期的に、事業所では、地域の小学生が来訪して交流をしたり、中学生の職場体験を受け入れたり、高校生がクリスマスカードを届けてくれるなど、地域の学校やボランティアとの交流を再開している。また、地域住民から、野菜などの差し入れをもらうこともある。管理者は、「地域の文化祭などの行事が再開されれば、参加したい」と考え、地域との関わりを模索している。さらに、事業所の1階には、地域交流室を設置しているが、現在は感染対策で地域住民への開放を休止している。今後は、少しずつ利用者と一緒に地域行事に参加したり、感染対策を講じながら、運営推進会議を活用して、地域交流室の活用の再開を周知したりするなど、職員間で検討していくことも期待される。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	コロナの感染状況等により、外に出る機会がなかなか持てていないが、施設周辺の散歩の際には挨拶をさせて頂いたり、小学校等との交流も少しずつ再開できている。	/	x	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	コロナ等の感染状況等にて交流が取りづらいつつあるが、長浜高校の生徒さんより手作りのプレゼントを頂いたり、合同の避難訓練を行ったりしている。長浜小学校の生徒さんとの交流、施設見学が行われた。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	x	感染症予防の為、地域交流室があるが、現在は交流を控えている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りつらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	職員の出勤退勤時、近所の方々とは挨拶する様にしている。玄関の出入口横のトイレを気軽に利用して頂いている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	x	感染症対策にて、地域交流室でのボランティアの発表等の機会を中止している。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	感染症対策により、学校関係の運動会等の行事の参加を見合わせているが、所長のみ出向いている。春の風フェスタ等の地域との関係を深めるための行事を中止している。避難訓練等には消防署員の方にも立ち会って頂き、アドバイス等頂いている。	△	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	今年度より利用者と家族にも参加して頂いている。地域の方々には、三密回避の上短時間に心掛け参加して頂いている。	△	/	○	運営推進会議は、利用者や家族の代表者のほか、近隣住民、民生委員、婦人会長、高等学校長、保育所長、他の事業所の管理者、市担当者等の多方面からの参画を得て、地域交流室を活用して、井戸端会議のような気さくな雰囲気で行われている。会議では、事業所の活動報告や事故報告・ヒヤリハット報告のほか、利用者の様子などを事業所新聞を活用しながら参加メンバーに伝え、意見交換が行われている。また、外部評価のサービスの評価結果や目標達成計画なども報告することができている。コロナ禍が続いている中でも、感染対策を講じながら、集合形式の会議を開催する工夫が行われていた。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	現状報告・活動報告・ヒヤリハット事故報告を中心に報告している。意見交換、情報交換も行っている。	/	×	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	毎回、奇数月の最期の月曜日の14時からと設定する事で、参加の調整をしてもらいやすくなっている。	/	/	○	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	年に1度カンファレンスの場で、管理者から話をすることで理念を再確認しながら全職員に周知している。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関入り口の正面と地域交流室に掲示しており、来訪時にみてもらえる様にしている。運営推進会議は地域交流室で行っている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文責の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	地域密着型サービスのリモート研修や法人内の研修、個人のスキルアップを図るための研修に積極的に取り組んでいる。	/	/	/	法人の代表者は、毎月1回程度は事業所を訪れて、利用者の様子を見るほか、職員から話を聞いている。年に数回、代表者は数名の職員と面談を行い、職員から意見を聞くとともに、事業所内の様子などを確認している。日頃から、管理者は事務長に電話で事業所の状況を報告したり、相談に応じてもらったりすることができるほか、月1回の所長会で他の施設や事業所の管理者と意見交換をしている。また、内部研修等を取り入れ、職員のスキルアップを図るとともに、目標管理シートで目標等を提出してもらい、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、職員への福利厚生のほか、希望休や有給休暇の取得を促すなど、職員同士の良好な関係も築かれ、働きやすい職場環境にも繋がっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月行うカンファレンスの場でテーマに沿って資料作りを行い、発表して行く中で、1人1人のスキルアップを目指し、自信がつく事で仕事のやりがいに繋がっている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	各職員に目標管理シートを作成させる事で、チームの目標や個人の目標を明確にし、向上心が持てる環境にしている。チームで話し合う時間を大切にし、目標達成に向け取り組んでいる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	今だコロナ禍の影響にて、地域密着型サービスの研修に参加出来ていない状況にある。グループホーム連絡会や、運営推進会議の場で、各施設の取り組みや情報を共有する事は出来ている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	各事業所より数名づつ職員を呼び、聞き取りや意見の吸い上げをしながら対応している。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	年に4回年間研修にて虐待防止をテーマとし、研修が行われ学ぶ機会を作っている。「グレーゾーン」な介護等、実体験の中で意見を出し合う事で虐待防止の芽を摘み動きをしている。	/	/	◎	定期的に、身体拘束適正化委員会等を開催して、職員間で話し合うとともに、内部研修の中で、虐待や不適切ケアの防止などのテーマを取り上げ、職員は理解をしている。職員は、「年4回研修があることで、その都度日頃のケアを振り返るきっかけになっている」と感じている。また、実際の声かけやケア事例をもとに、職員間で対応を話し合ったり、グレーゾーンチェックリストのアンケートを実施したりするなど、より良い理解の促進にも努め、意識した対応が行われている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	月に1度のカンファレンスの場、日々の申し送りの際(朝・夕)で細かなケアの見直し徹底事項について話す機会を作っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日頃より職員とのコミュニケーションに努め、不安に感じている事等の聞き取りを行い、心のメンテナンスを行う事で健全な心でケアに取り組める様に努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	年間研修にて、学ぶ機会を作っている。職員の個人的な判断での行動は許されないと、言う事を教育している。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	不安に思う事は必ず職員や管理者に相談し、身体拘束にあたるのかどうかを話し合いながら、日々対応している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	今だコロナ禍の状況により、家族会の開催は難しい。家族の面会時には利用者様の状態の説明を行い、理解して頂いている。今、所、拘束の要望はない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	対応が必要と思われる家族に対しては声掛けを行い、相談を受ける心構えは出来ている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	以前に1名制度を利用されている利用者様がおられたが、現在必要とされている家族の方はおられず、今後必要とされる場合は連携に努める。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルは作成出来ていないが、急変リスクの高い利用者様に関しては発生時を想定した話し合いを行い、スムーズに対応出来る様に心掛けている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に行われている「救命救急訓練」に代表職員が参加し、他の職員に学んだ事を伝えている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	些細な事でもヒヤリハットにまとめて回覧し、事故防止を意識している。必ず対策を検討し、2度と起こらない様に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	月に1度のカンファレンスの場で、各担当が利用者様の状態から考えられるリスクや危険を検討し、話合っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルは作成していないが、年に2回苦情処理委員会を行い、外部や他事業所の意見を求め会議録に記載している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	現在のところ、利用者様の家族からの苦情は寄せられていない。地域の方より「ごみ箱が光って眩しい」と言う苦情が寄せられ速やかに対応し、解決している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	ヒヤリハットや事故報告書を基に家族に内容・対応の説明を行い状態の報告をしている。報告書を回覧する事で、再発防止を徹底している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	利用者様は言葉にする事が困難な方が多く、日頃より表情や仕草で理解出来る様心掛けている。家族は面会時や運営委員推進会議に参加して頂く事で、意見や要望を伝えて頂いている。家族会は、開催出来ていない。	◎		◎	日々の会話の中で、職員は利用者から意見や希望を聞くとともに、表情や様子から思いをくみ取るなど、職員間で共有し、柔軟に対応をしている。家族から、面会時や電話連絡時などを活用して、意見や要望を聞くようにしている。また、管理者は現場で職員と一緒に業務を行い、日頃から職員の見聞き、相談にも応じるなど、職員が話しやすい環境づくりに努めていることもあり、職員は相談しやすいと感じている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	面会時にはなるべく各担当が家族の対応を行う様にして、最近の様子や状態をお伝えしている。お話しする中で、家族の苦情や相談したい内容を聞き出せるようにしている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	コロナが5類に分類されてからは月に1度程のペースで来所され、職員や利用者様と交流されている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日々のミーティングやカンファレンスの場で、意見を出しやすい環境作りを努めている。意見を出し合いながら、利用者様本位の支援に近付ける様に検討している。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の目的を説明し結果により課題を明確にし、今後の目標達成に向けカンファレンス、ミーティングの場で話し合っている。				外部評価の自己評価は、職員の見聞きを取り入れながら、管理者等が取りまとめ、ユニット毎に作成をしている。また、全体会議等の中で、サービスの評価結果を報告するとともに、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、運営推進会議で、評価結果や目標達成計画、目標達成に向けての取り組み経過などを報告することができている。今後は、目標達成の取り組みの状況などを参加メンバーや家族に伝える際に、モニターとしての役割を担ってもらえるように、事業所内の様子を確認してもらい、助言やアドバイスを聞きながら、サービスの質の向上に繋げることも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	合同カンファレンスの場で評価の結果を踏まえて、意見を出し合う場とし、改善点等を明らかにし事業所全体の目標を話し合っている。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進メンバーとしての市職員、利用者様の家族にも参加して頂いており(家族は今年度より再開)外部評価の結果においても、ご理解頂いている。	○	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	カンファレンスの場や運営推進会議の場で、報告し成果を確認して頂いている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	簡単な災害時夜間想定要領は職員が見れる場所に貼り出しているが、随時最新の情報を取り入れる様にしている。				年2回以上、様々な災害や昼夜を想定した避難訓練を実施している。訓練では、階段を使用して2階に上る垂直の避難訓練を実施し、消防署から階段を上る際に、利用者を乗せた安全な毛布の持ち方などのアドバイスを受けている。また、近隣にある長浜高校の校長と話し合い、地震や津波が発生した際に、校舎の一部を避難場所として活用する許可をもらい、事業所から見える場所にある裏門を開放してもらっている。さらに、地域や事業所周辺で暮らす住民の高齢化もあり、災害が発生した場合には、事業所の徒歩圏内に住む職員を含む、10名の職員にも緊急時の一斉通報の電話が入り、迅速な協力体制も整えている。今後は、家族や地域住民に対して、安心安全な災害への備えがより理解してもらえるように、事業所新聞を活用して、訓練の様子を報告したり、運営推進会議や家族会等を活用して、災害対策を話し合ったりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	主に夜間想定にて火災、水害等消防署立ち合いのもと訓練を行っている。訓練後は、総評を頂き反省点を話し合っている。					
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	業者による定期点検を行っている。非常食は期限が近づいてきた利用者様に食べて頂く様にし、期限内に新しい物と入れ替えている。					
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	設定を変え避難訓練を行い、消防署の方にも来て頂きご指導頂いている。上手くいかなかった箇所を職員同士で話し合い、本番で活かせる様に心掛けている。	△	×	○		
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	日中であれば長浜高校にも避難への協力を得られるとの事で、安全に配慮し半数程の利用者様に避難訓練に参加して頂いている。消防署立ち合いのもと行っている。					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	引き続きコロナが流行しており十分な活動には至っていないが、毎月の新聞作成にて家族や来訪者、運営推進会議の場で見て頂ける様にしている。				地域の介護支援専門員から、入居相談が入ることが多いほか、地域住民から相談が寄せられた場合には、適切に対応をしている。市行政や地域包括支援センターなどと、良好な関係が構築され、連携を図ることもできている。また、市のグループホーム連絡会で、市内の他のグループホームと連携を図るとともに、相互の運営推進会議に、管理者が参画する取り組みがあるなど、情報交換を行うこともできている。さらに、玄関先の掲示板などを活用しながら、地域住民に周知を図る取り組みも期待される。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	コロナの流行が継続しており、地域の方との交流が以前程は取れない状況にある。		×	○		
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	現在もコロナが流行しており、地域交流室の開放は行っていない。面会や運営推進会議の場として、地域交流室を活用している。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	長浜中学生の職場体験にて、2名受け入れを行っている。職員指導のもと、介助の体験をして頂いた。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市のグループホーム連絡会に加入し市や他事業所との情報交換を行い、連携を取っている。			○		